



発行所 日刊木材新聞社  
〒135-0041 東京都江東区冬木23-4  
編集・営業 ☎03-3820-3500  
FAX03-3820-3519  
総務・販売 ☎03-3820-3511  
FAX03-3820-3518  
https://jfpj.jp/  
e-mail info@n-mokuzai.com  
購読料 1ヵ月 6,200円  
©日刊木材新聞社 2022  
本紙の無断複製(コピー・PDF)配布は、著作権の侵害にあたり違法です。



# 翠豊に2億円投資

## エヌ・シー・エヌ

### 非住宅向け木材加工・施工を強化

エヌ・シー・エヌ(東京都、田鎖郁男社長)は1日、翠豊(岐阜県加茂郡、今井潔志社長)と出資契約を締結した(9月21日付1面一部既報)。第三者割当増資による翠豊の株式取得金額は2億2680万円。田鎖社長は同日に行った記者会見で、「翠豊は大断面加工と木構造の施工では他にない優れた技術力を持つエクセレントカンパニー。翠豊の木構造の加工・施工力、当社の営業力という、互いにないものを補充し合うことで、木造建築の新たな領域にチャレンジする」と語り、グループの総力を高めて木構造市場のさらなる拡大を図る考えを示した。

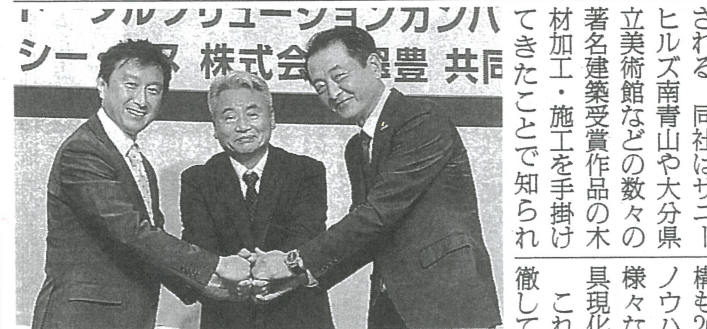
エヌ・シー・エヌグループの2022年3月期の非住宅分野の売上高は8億6500万円、4年間で同分野の円で、全売上高の1割程度。これを23年3月

ち、翠豊の売上高は10億円と見積もっている。

翠豊のグループ化で期待される最大のシナジーは木構造施工力の強化だ。

設計事務所やゼネコンなどからエヌ・シー・エヌに寄せられる木構造関連の問い合わせは年間530件ほどあるが、工事まで請け負ってほしいという要望には対応できなかった部分もあった。今後は、材工提案を強化することができる。

建築業界における翠豊の知名度向上も期待



左から木構造デザインの福田浩史社長、翠豊の今井社長、エヌ・シー・エヌの田鎖社長

る。機械加工で対応できない部分は加工大工で対応し、複雑な木架構も20年以上蓄積したノウハウでこなして、様々な建築デザインを具現化してきた。

これまでは「黒子に徹してきた」(今井社長)が、エヌ・シー・エヌがPRすることで知名度を上げることができる。

営業面でも、エヌ・シー・エヌと協力することによる翠豊の安定受注、翠豊

より、人材確保や設備投資などもしやすくなるほか、エヌ・シー・エヌが持つBIMや3DCADなどの機能や人材、翠豊の大規模木

の著名建築家やスーパーゼネコンとの販売ルートを生かすことなどが活用することなどを進める。

田鎖社長は子会社化の経緯について、「2年ほど前から次の展開をどうするかという話をしており、自然とこうした結論になった」と説明。「これまでは本来木造で建てられるべきものが鉄骨になってしまった例もあったが、翠豊の事業を拡大することで、さらなる木造化を推進する。R

造からの単なる置き換えではなく、木造ならではの新しい価値観を作っていきたい」と抱負を語った。